

【11-A-1】品野連区 社会条件 その1

【連区の概要】

品野連区は瀬戸市の北東端に位置しており、春日井市、豊田市、多治見市、土岐市と接している。連区の南部に一部市街地が存在するほかは北部から東部にかけて森林が広がっている。また、定光寺や岩屋堂といった歴史的資源も点在している。

主要道路としては、連区の東部を南北に東海環状自動車道が通過しており、せと品野 IC が存在する。また、瀬戸市中心部と連区北部とを国道 248 号が、連区東部とを国道 363 号が、それぞれ結んでいる。

品野連区



【人口および世帯数】

平成 12 年から平成 22 年までの 10 年間で、品野連区全体の人口は 4,715 人から 3,955 人と 16.1%減少し、連区全域で人口が減少傾向である。また世帯数は 1,625 世帯から 1,436 世帯と 11.6%減少している。

品野連区全体の 65 歳以上人口比率が 31.9%と、瀬戸市全体の 23.3%と比べて 8.6%高く、井山町の 73.8%を筆頭に連区全域で 65 歳以上人口比率が高い。

階層別人口構成

年代	人口	構成比
0～14歳	297人	7.6%
15～64歳	2,376人	60.5%
65歳以上	1,254人	31.9%
区分不明	28人	-
連区内人口	3,955人	

※平成22年国勢調査結果より



人口増減率図



65歳以上人口比率図

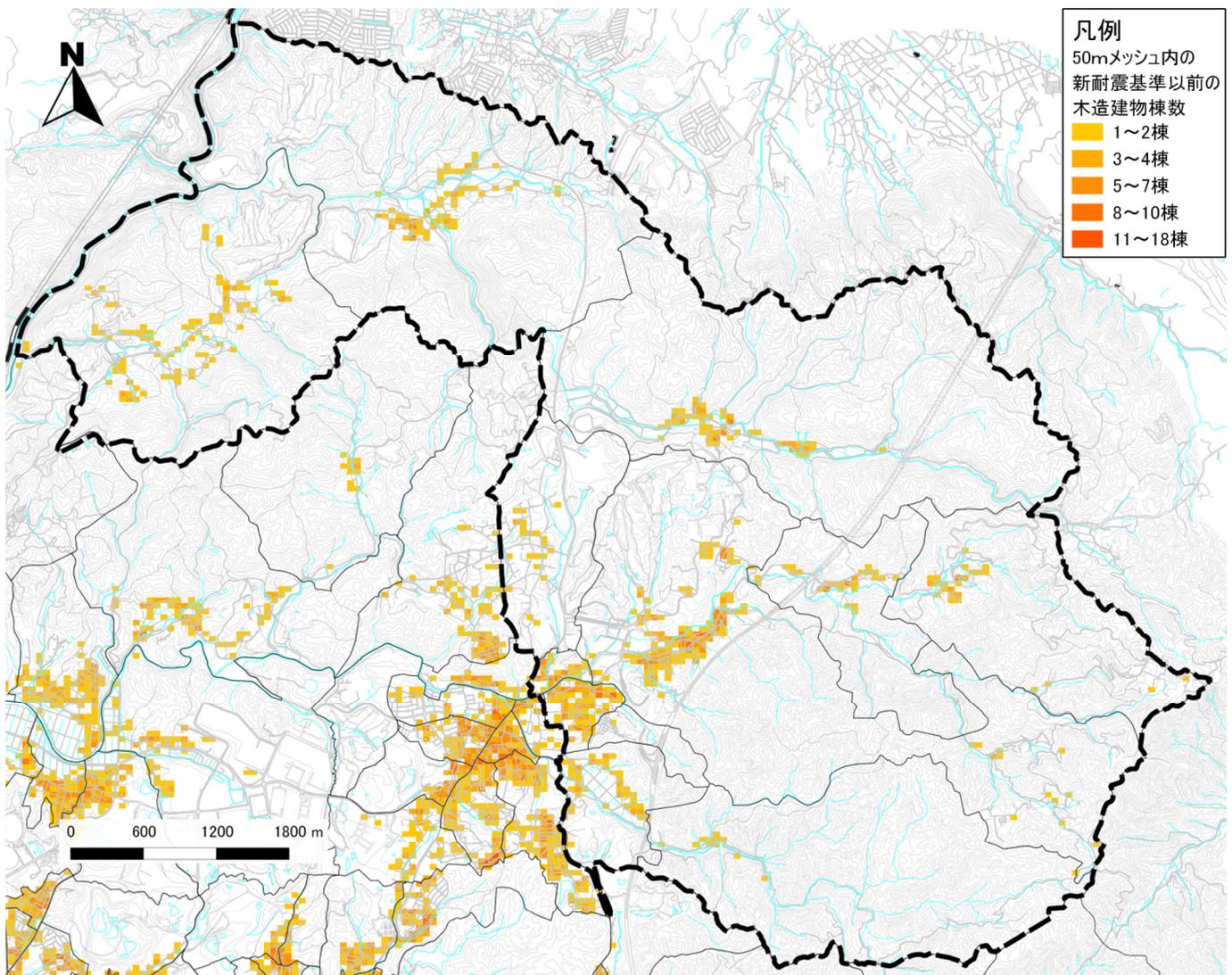
【建物】

品野連区の木造建物および非木造建物の割合は、木造建物 69.0%、非木造建物 31.0%である。新耐震基準以前（昭和 55 年以前）の木造建物は全建物の 51.0%であり、瀬戸市全体の 34.3%に比べて高い。品野連区は山地の占める割合が高く、住宅地等の開発が大規模になされてこなかったため、全体的に新耐震基準以降の比率が低い。

木造・非木造構成

	建築年	棟数	構成比
木造	S35年以前	842棟	28.1%
	S36～55年	684棟	22.9%
	S56年以降	539棟	18.0%
	計	2,065棟	69.0%
非木造	S45年以前	465棟	15.5%
	S46～55年	182棟	6.1%
	S56年以降	280棟	9.4%
	計	927棟	31.0%
連区内棟数		2,992棟	100.0%

※平成23年度都市計画基礎調査
建物利用現況図をもとに集計



新耐震基準以前の木造建物分布図

【11-B-1】品野連区北部 水害および土砂災害

- 中心集落の一部が土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域に指定され、土砂災害危険箇所が広域に存在する。
- 下半田川町の中心集落を除く地域で風水害時の避難所までの距離が離れている。

【水害および土砂災害箇所】

品野連区北部では、浸水想定区域の設定はなく、近年大規模な水害は発生していない。

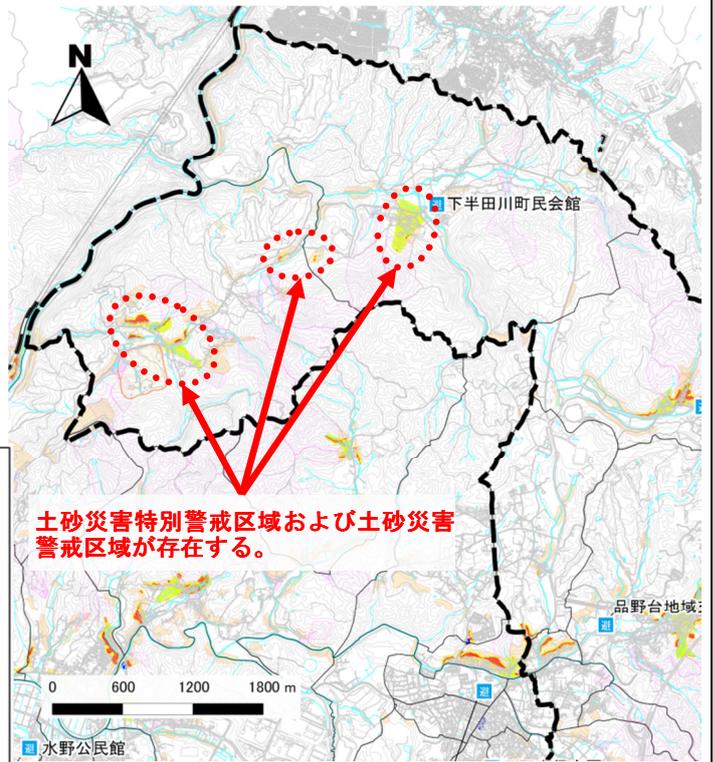
一方、定光寺町と下半田川町の中心集落が土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域に指定（9箇所）されているうえ、急傾斜地危険箇所、地すべり危険箇所、土石流危険渓流などは広域に存在している。

土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	24棟
特別警戒区域	10棟
警戒区域	14棟
土石流	83棟
特別警戒区域	1棟
警戒区域	82棟

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
- 急傾斜地の崩壊(特別警戒区域)
- 土石流(特別警戒区域)
- 急傾斜地の崩壊(警戒区域)
- 土石流(警戒区域)
- 土石流危険渓流
- 土石流危険渓流による危険区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 既往水害(東海豪雨)



土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が存在する。

水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

品野連区北部では、下半田川町民会館が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。下半田川町の中心集落から離れた山間部や定光寺町では、避難所が付近に存在しないことを地域住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

特に、定光寺町では愛知県道205号下半田川春日井線を下半田川町方面に向かう場合、県道が土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊）に含まれる部分が存在し、ここを迂回する道路がない。定光寺町から南側に向かい、水野連区に避難する体制も準備しておく必要がある。

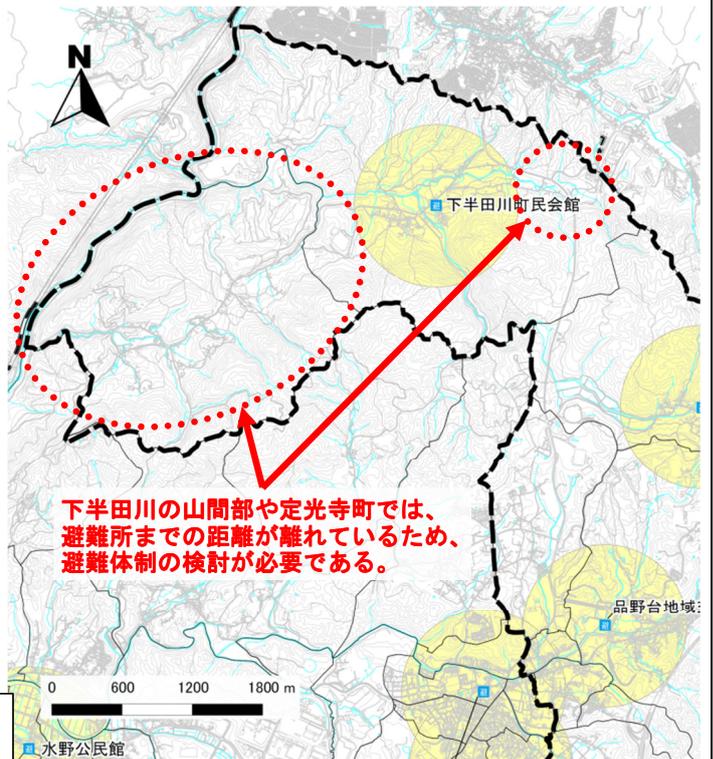
風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
品野台地域交流センター【品野連区東部】	60人	120人	195人
上半田川町民会館【品野連区東部】	15人	30人	50人
下半田川町民会館	40人	80人	130人
水野公民館【水野連区西部】	75人	150人	245人

※地域防災計画より

凡例

- 避難所・緊急避難場所(風水害)
- 緊急避難場所兼避難所
- 避難所等からの対象範囲(同心円)
- 避難所から700mの範囲



下半田川の間山部や定光寺町では、避難所までの距離が離れているため、避難体制の検討が必要である。

風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【11-B-2】品野連区東部 水害および土砂災害

■上品野町、白岩町、上半田川町、品野町 8 丁目の谷沿いに土砂災害特別警戒区域および土砂災害警戒区域が集中する。

■山間部の広い範囲で風水害時の避難所までの距離が離れている。

【水害および土砂災害箇所】

品野連区東部では、浸水想定区域の設定はなく、近年大規模な水害は発生していない。

また、上品野町、白岩町および品野町 8 丁目の水野川周辺の間麓または丘陵地、上半田川町の蛇ヶ洞川沿いの山麓に土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）が集中している。

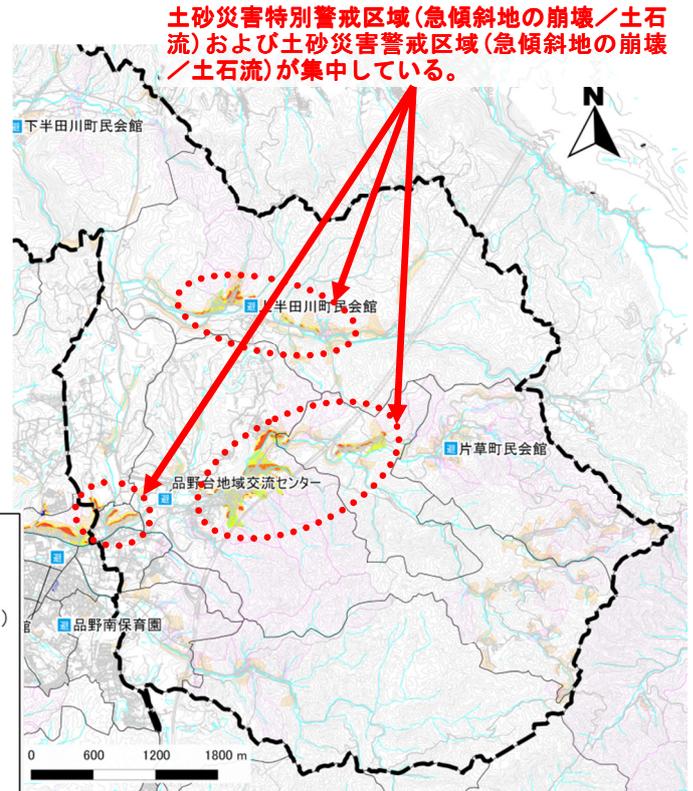
その他、品野連区東部では、広い範囲に土石流危険渓流、急傾斜地崩壊危険箇所が分布している。

土砂災害警戒区域内にある建物棟数

急傾斜地の崩壊	203棟
特別警戒区域	85棟
警戒区域	118棟
土石流	310棟
特別警戒区域	55棟
警戒区域	255棟

凡例

- 風水害避難所
- 土砂災害情報
- 急傾斜地の崩壊(特別警戒区域)
- 土石流(特別警戒区域)
- 急傾斜地の崩壊(警戒区域)
- 土石流(警戒区域)
- 土石流危険渓流
- 土石流危険渓流による危険区域
- 急傾斜地崩壊危険箇所
- 地すべり危険箇所
- 既往水害(東海豪雨)



土砂災害特別警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）および土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊／土石流）が集中している。

水害・土砂災害危険度図

【風水害時の避難所および緊急避難場所】

品野連区東部では品野台地域交流センター、片草町民会館、上半田川町民会館の3ヶ所が風水害時の避難所・緊急避難場所として指定されている。

中心集落を除く山間部の広範囲において、風水害時の避難所までの距離が離れている。風水害時の避難所が付近に存在しないことを地域住民に周知するとともに、早めの避難を促すなど、避難体制を整える必要がある。

また、土砂災害時の道路閉塞についても考慮に入れた避難体制を整える必要がある。

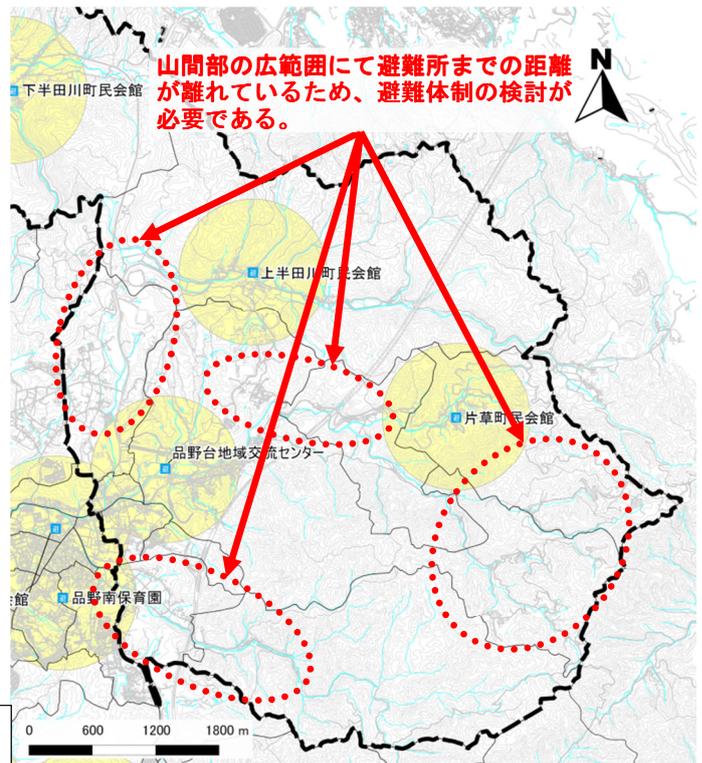
風水害時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所・避難所	収容定員(目安)		
	長期	初期	直後
品野台地域交流センター	60人	120人	195人
片草町民会館	10人	25人	40人
上半田川町民会館	15人	30人	50人
下半田川町民会館【品野連区北部】	40人	80人	130人
品野南保育園【下品野連区】	20人	45人	70人
下品野ふれあい会館【下品野連区】	40人	75人	125人

※地域防災計画より

凡例

- 避難所・緊急避難場所(風水害)
- 緊急避難場所兼避難所
- 避難所等からの対象範囲(同心円)
- 避難所から700mの範囲



山間部の広範囲にて避難所までの距離が離れているため、避難体制の検討が必要である。

風水害時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【11-C-1】品野連区北部 地震災害

- 川沿いに液状化の可能性がある地域が存在する。
- 地震時の避場所までの距離が離れている地域が存在する。

【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

品野連区北部はほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。

(2) 液状化について

液状化の可能性がある地域は、定光寺川、蛇ヶ洞川とその支流（東沓掛川、日向川）で形成された沖積地形（谷底平野、扇状地）に分布している。

このうち、定光寺町東バス停付近には、液状化の可能性が高い地域が存在する。

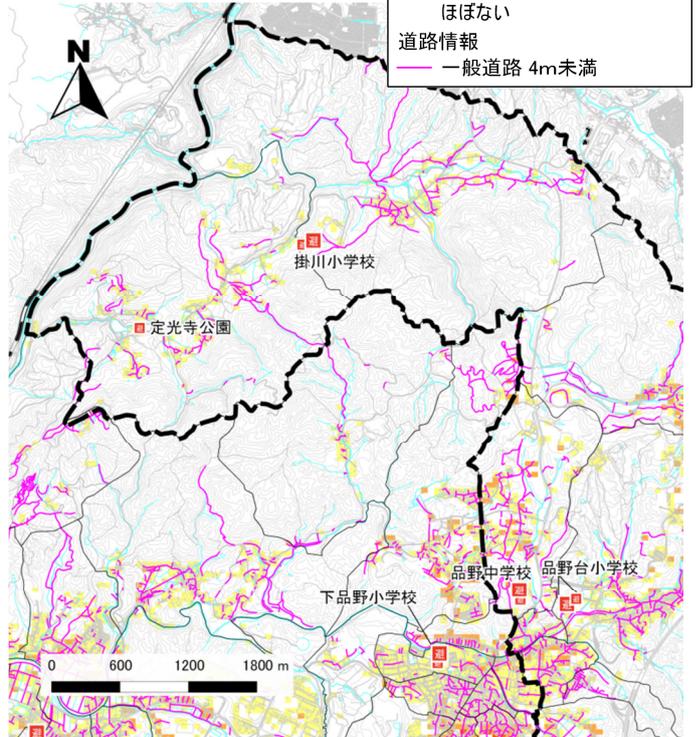
凡例

耐震性の低い建物が倒壊する割合

- 高い
- やや高い
- 低い
- ほぼない

道路情報

- 一般道路 4m未満

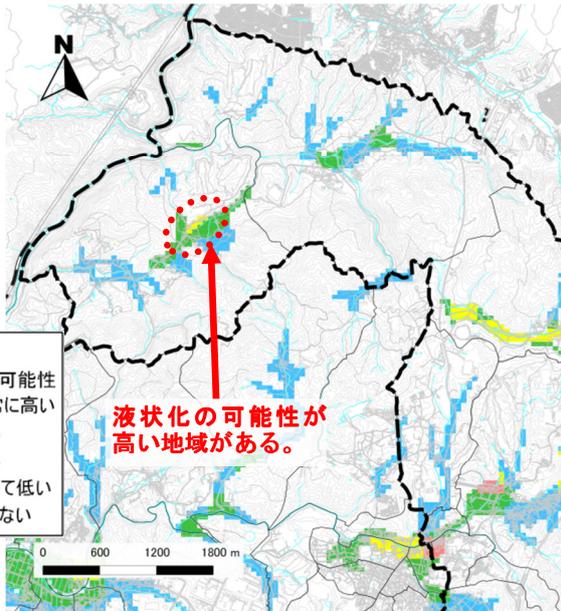


建物(木造および非木造)倒壊危険度図

凡例

液状化の可能性

- 非常に高い
- 高い
- 低い
- 極めて低い
- ほぼない



液状化危険度図

【地震時の避難所および緊急避難場所】

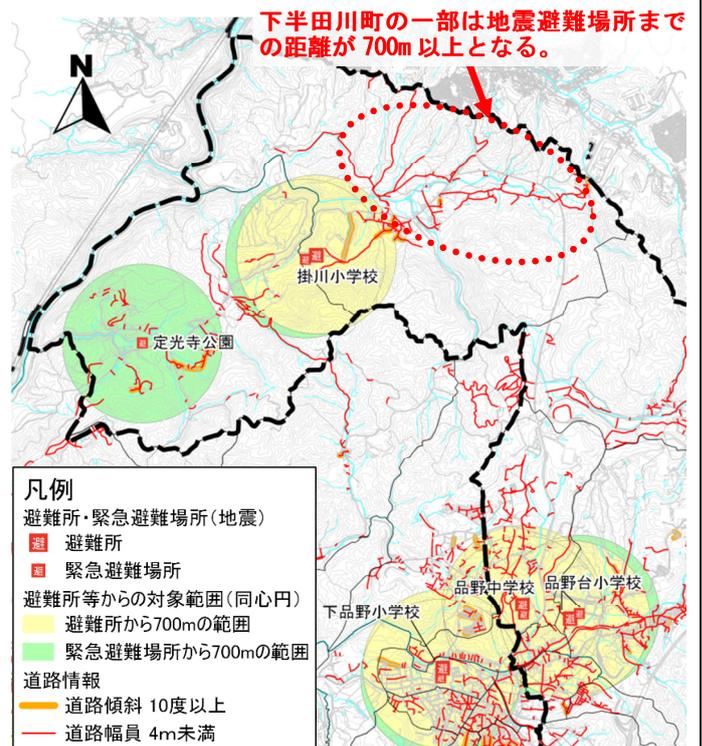
品野連区北部では、地震時の緊急避難場所として定光寺公園、掛川小学校の2ヶ所、避難所として掛川小学校の1ヶ所が指定されている。

近隣連区の避難所も含めて、下半田川町の一部は地震時の避難所までの距離が700m以上離れているため、近くに避難所が存在しないことを地域住民に周知する必要がある。

地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
定光寺公園(公園内)	掛川小学校	85人	165人	270人
掛川小学校(運動場)	品野台小学校	110人	220人	360人
品野台小学校(運動場)	【品野連区東部】			
品野中学校(運動場)	品野中学校	290人	575人	935人
【品野連区東部】	【品野連区東部】			
水野小学校(運動場)	水野小学校	95人	190人	310人
【水野連区】	【水野連区】			

※地域防災計画より



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図

【11-C-2】品野連区東部 地震災害

■川沿いに液状化の可能性が高い地域が存在する。

■山間部では地震時の避難所までの距離が離れ、土砂災害による道路閉塞の可能性もある。

【建物被害および液状化】

(1) 建物被害について

品野連区東部はほぼ全域にて、耐震性の低い建物が倒壊する危険性がある。倒壊の割合がやや高い地域は、連区全域に点在している。

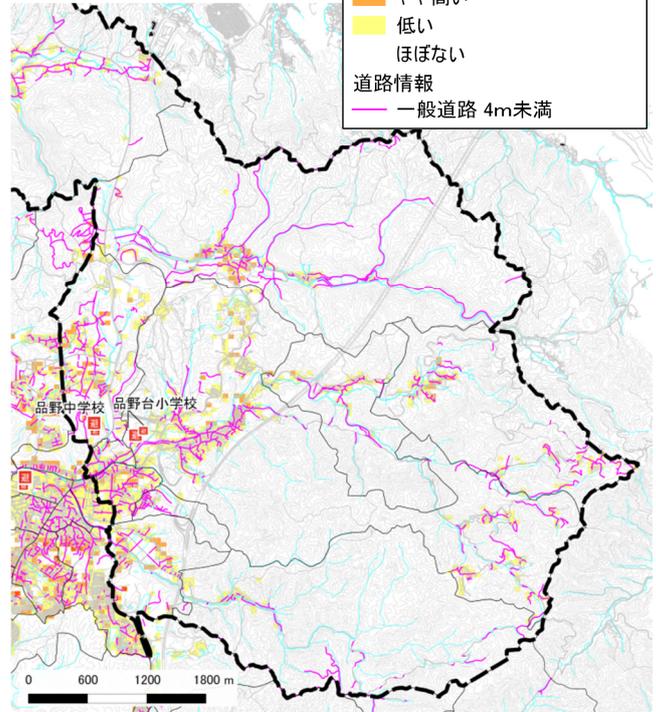
(2) 液状化について

液状化の可能性のある地域は、蛇ヶ洞川、水野川とその支流（山崎川、蟹川、北山川、品野川、金地川）で形成された沖積地形（谷底平野、扇状地）に分布している。このうち、可能性が高い地域として下記の地域がある。

- ①蛇ヶ洞川上流の谷底平野（上半田川町）
- ②蟹川および北山川の谷底平野（上品野町）
- ③水野川とその支流（品野川、金地川）による谷底平野（中品野町、品野町8丁目、上品野町）

凡例

耐震性の低い建物が倒壊する割合
■ 高い
■ やや高い
■ 低い
■ ほぼない
 道路情報
— 一般道路 4m未満

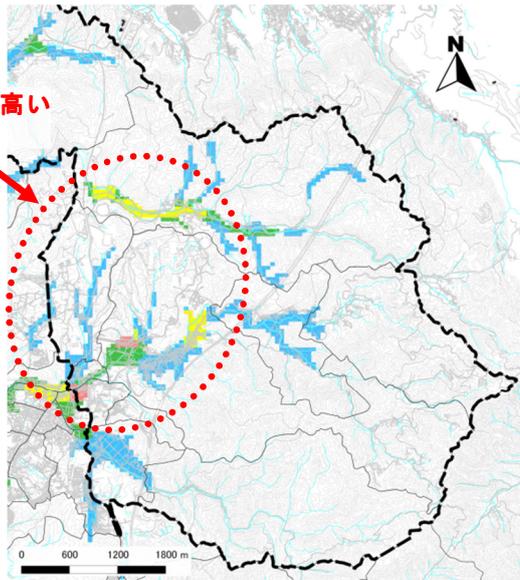


建物(木造および非木造)倒壊危険度図

液状化の可能性が高い地域が存在する。

凡例

液状化の可能性
■ 非常に高い
■ 高い
■ 低い
■ 極めて低い
■ ほぼない



液状化危険度図

【地震時の避難所および地震避難場所】

品野連区東部では、地震時の避難所および緊急避難場所として品野台小学校、品野中学校の2ヶ所が指定されている。品野町8丁目の全域と中品野町、上品野町、広之田町の一部地域は、700m以内の避難所もしくは緊急避難場所が存在する。それ以外の地域では山間部を中心に地震時の避難所もしくは緊急避難場所までの距離が離れており、近くに避難所が存在しないことを地域住民に周知する必要がある。

また、山間部では土砂災害や橋梁等構造物の被害により道路閉塞の可能性があるので、孤立する可能性がある。

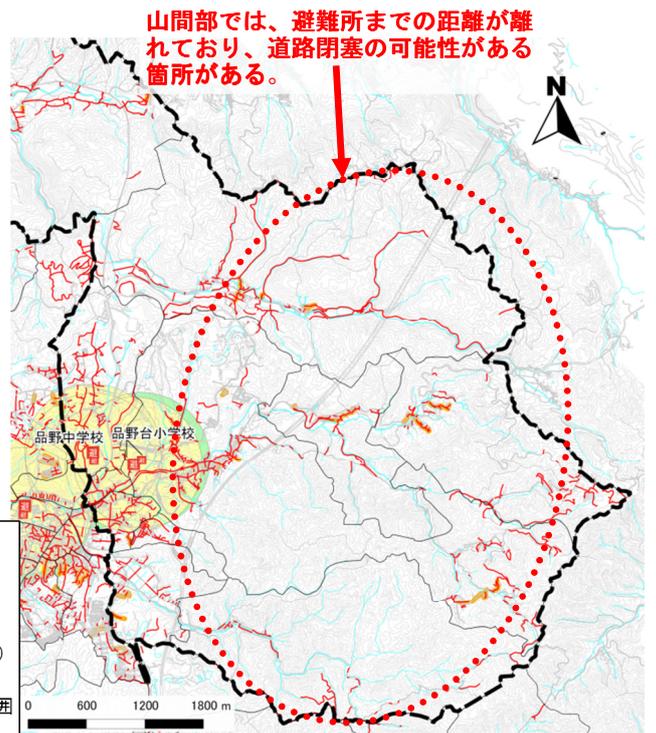
地震時の避難所・緊急避難場所一覧

緊急避難場所	避難所	収容定員(目安)		
		長期	初期	直後
品野台小学校(運動場)	品野台小学校	110人	220人	360人
品野中学校(運動場)	品野中学校	290人	575人	935人

※地域防災計画より

凡例

避難所・緊急避難場所(地震)
■ 避難所
■ 緊急避難場所
 避難所等からの対象範囲(同心円)
■ 避難所から700mの範囲
■ 緊急避難場所から700mの範囲
 道路情報
— 道路傾斜 10度以上
— 道路幅員 4m未満



地震時の避難所・緊急避難場所の対象範囲図